

平成24年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市から近年姿を消した蝶

私が所属する西多摩昆虫同好会が「新版 東京都の蝶」という本を発行しました。1991年に「東京都の蝶」を発行しましたが絶版になって久しく、21年ぶりにほぼ全面的に書き替えて新版として発行したものです。

この巻末に市区町村別の蝶類分布一覧表を掲載しています。前回発行した時に、青梅市で1980年代に定着種としたのは80種でした。この中には、1970年代には確認されていたが、1980年代には確認できなかった蝶が12種います。このうち、疎林性の雑木林に棲むクロシジミは、東京都から絶滅してしまいました。河川周辺に生息するツマグロキチョウとアサマイチモンジは、「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)~東京都レッドリスト」(2010年版)で、東京都から絶滅したとされました。ツマグロキチョウは河川環境の変化により食草のカワラケツメイが生えるような環境がなくなったのが、姿を消した大きな原因と思われます。アサマイチモンジの食草はスイカズラで、この植物は今でも市内各地にあるので、なぜいなくなってしまったのか原因はよくわかりません。ところが、2010~11年に両種とも都内数か所で確認されているので、青梅市でも復活の可能性がります。

アイノミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ、ツマジロウラジャノメ、ヒメキマダラヒカゲは、いずれも青梅市では御岳山に記録がある山地性の蝶で、今でも環境に変化がないので生息している可能性は残っています。

今回発行した新版で、青梅市でこれまでに記録された蝶は104種となりました。うち84種を2000年以降の定着種としました。1980年代には生息していたが1990年代以降は見られなくなってしまったため、このリストから外れた蝶が3種います。この一つにスジグロチャバネセセリがいます。同じイネ科を食草として、同じような環境に生息する1980年代以降見られなくなった蝶にヘリグロチャバネセセリとコキマダラセセリがいます。いずれも山地草原性のセセリチョウで、1970年代の青梅市には御岳山の大塚山に3種のすべてが生息していました。ヘリグロチャバネセセリは高水山での記録もあります。いずれも地味な蝶ですが、当時の大塚山は北面が草地環境で、ここが上記3種の発生できる環境でした。その後、植林されたヒノキが成長するにしたがい草地環境が減り、昨年行った調査では3種のすべてが見られませんでした。草原環境が無くなったことが原因です。

この傾向は奥多摩山地全体に共通しています。森林が伐採されないことにより草原環境が無くなったこと、尾根の防火帯の草刈が行われなくなったこと、シカの食害により山地草原の植生が変化したことが要因です。この3種の蝶はいずれも近年に東京都から絶滅してしまったのではないかと危惧されています。 (文責 久保田繁男)